

T式ひらがな音読支援の 理論と実践

ディスレクシアから読みの苦手な子まで



国立成育医療研究センター副院長
こころの診療部統括部長

小枝達也

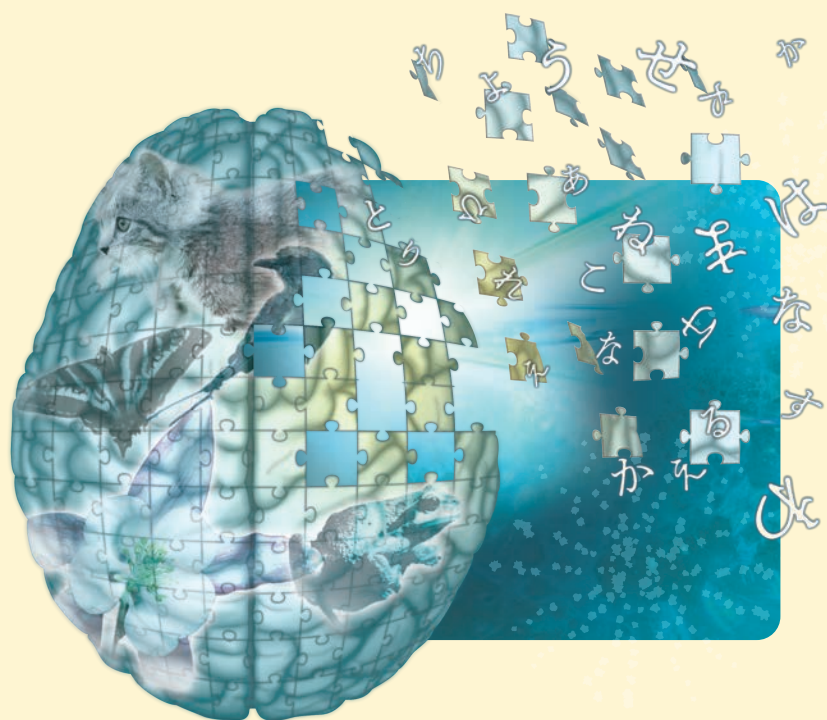
北海道大学大学院
教育学研究院教授

関 あゆみ

中山書店

T式ひらがな音読支援の 理論と実践

ディスレクシアから読みの苦手な子まで



国立成育医療研究センター副院長
こころの診療部統括部長

小枝達也

北海道大学大学院
教育学研究院教授

関 あゆみ

中山書店

序文

私が一番初めにディスレクシアのお子さんに出会ったのは、今から 34 年前のことでした。よく話をしてくれる活発なお子さんで、字が読めないという主訴で受診されました。会話の様子からは発達全般が遅れているとは思えません。ところが、本を読ませるとそれはそれは大変な苦勞をして読みます。一文字ずつ拾って読むし、間違えて読むし、同じところを何度も読み直すしといった状態で、聞いている私は、何を讀んでいるのかさっぱり分からないといった状態でした。

どうしてこんなことが起きるのか、不思議でたまりませんでした。当時は日本語のディスレクシアについてはほとんど資料がありませんでしたが、鈴木昌樹先生の本（微細脳障害：学習障害児の医学 1979）に dyslexia という小児のことが詳しく紹介しており、まさにこれだと納得したことを覚えています。

診断のめぼしはついたものの、どうやったら本が楽に正しく読めるようになるのか、皆目見当が付きませんでした。学んでみたいと思ってもディスレクシアについて教えてくれるところなどどこにもありませんし、そもそもディスレクシアらしき子どもは病院に来ませんでした。そこで、知り合った学校の先生方に文字が読めない子はいませんか？と尋ねるのですが、そんな読めないなんていう子はいませんという返事が返ってくるばかりです。細々と年に数人のディスレクシアのお子さんを診察しながら、治療や指導法の決め手がないことに悶々としていました。

そんな中で「読み書き障害（ディスレクシ

ア）のすべて」（PHP 研究所）という本が出版されました。Shaywitz S 先生が執筆された「Overcoming Dyslexia」という本の訳本です。これが私に大きな示唆を与えてくれました。ただ日本語の指導にすぐに活かせるわけではないため、試行錯誤を繰り返して日本語に合った指導法を考え、その効果を検証していきました。それが T 式ひらがな音読支援の 2 段階方式の指導になります。指導のためのアプリも発明しました。

また前向きに追跡する調査を行って、小学校 1 年生のうちに文字を読むことが苦手な子を見出して、直ちに指導するという RTI モデルによる早期発見と早期指導法を開発しました。これには鳥取市や鳥取県内の小学校に多大なるご協力をいただきました。心から感謝申し上げます。おかげさまで 2014 年に完成して、鳥取市のすべての小学校で実践されています。それが広がって鳥取県内の約 8 割の小学校や松江市のすべての小学校に導入されて成果を上げています。

本書には T 式ひらがな音読支援の 2 段階方式による音読指導および RTI モデルによる早期発見と早期指導法の理論と実践が解説してあります。ディスレクシアに限らず、文字を読むのが苦手なお子さんから、外国人のお子さんまで幅広く使える方法です。本書の活用によって、本を読むのが楽になり楽しく学校に通えるお子さんが増えることを心から願っています。

2019 年 1 月

小枝達也

復刻版の序

2019年1月に日本小児医事出版社より『T式ひらがな音読支援の理論と実践～ディスレクシアから読みの苦手な子まで～』を発刊いたしました。大変好評を頂いておりましたが、はからずも2022年3月末日にて絶版となりました。

いろいろな方々より惜しむ声を頂戴したことを受けて、このたび中山書店より復刻版として発刊する運びとなりました。復刻版の刊行にあたり、日本小児医事出版社のご厚情ならびに中山書店のご理解に心より感謝申し上げます。さほど間を空けずに復刻できますことを心より喜んでおります。引き続き本を読むことに困っているお子さんのお役に立てることに大いなる幸せを感じているところです。

本文38～40頁に紹介してあります音読指導アプリは、復刻版とともにバージョンアップした形でご提供できることになりました。NPO法人ASridのご厚意により、Web版として提供いたします。これにより利用可能な端末の種類が増えることとなります。下記のQRコード（URL: <https://www.t-ondoku.com>）によりアクセスしてご使用ください。本文41～44頁に紹介してある語彙指導アプリについては、現状のままのご提供となります。

新しい音読指導ウェブサイトのQRコード



本書は、ディスレクシアのお子さんに限らず、読みに困難のあるお子さん、さらには外国人のお子さんの読み指導にご利用いただけます。本書の活用によって、本を読むのが楽になり楽しく学校に通えるお子さんが増えることを心から願っています。

2022年5月

小枝達也

目次

序文	2
----	---

第①章 ディスレクシアとは何なのか 小枝達也

①そもそもディスレクシアとは？	8
②ディスレクシアの定義	10
③ディスレクシアの根本的な原因	12
④ディスレクシアの症状	14
⑤ディスレクシアと脳機能	16
⑥ディスレクシアの診断	18
⑦ディスレクシアの診断チャート	26

第②章 T式ひらがな音読支援

①T式ひらがな音読支援の概要	小枝達也	30
1)そもそもT式ひらがな音読支援ってなに？		30
2)2段階方式による音読指導の開発について		31
3)RTIモデルによる早期発見と早期介入の開発について		31
②2段階方式による音読指導		32
1)2段階方式による指導の理論	小枝達也	32
2)解読指導	小枝達也	37
3)語彙指導	小枝達也／関あゆみ	41
③RTIモデルによる早期発見と早期対応	関あゆみ	46

第③章 T式ひらがな音読支援の実際

① 2段階方式による音読指導の実際	小枝達也	56
1) 解読指導の実際		56
2) 語彙指導の実際		60
② RTI モデルによる音読指導の実際	関あゆみ	64
1) 1年時の検査と指導（段階Ⅰ・Ⅱ）		64
2) 2年時の検査と指導（段階Ⅲ）		69

巻末資料

① 解読指導原法（文字カード）		74
② ひらがな直音音読検査		89
ひらがな直音音読検査の実施方法		89
検査シート		90
チェックシート		93

索引		95
----------	--	----

著者紹介

国立成育医療研究センター こころの診療部

小枝 達也 (コエダ タツヤ)

【経歴】

1984 年 鳥取大学医学部医学科卒業
1993 年 オランダ政府奨学生としてフライ大学小児科へ留学
1996 年 鳥取大学医学部脳神経小児科助教授
1998 年 鳥取大学教育学部教授
2004 年 鳥取大学地域学部教授 (改組に伴う名称変更)
2009 年 鳥取大学附属小学校校長 併任 (2012 年度まで)
2014 年 鳥取大学地域学部附属子どもの発達・学習研究センター長 併任
2015 年 国立研究開発法人国立成育医療研究センターこころの診療部長
鳥取大学名誉教授
2017 年 国立研究開発法人国立成育医療研究センター副院長 (併任)
2018 年 国立成育医療研究センターこころの診療部統括部長 (名称変更)

【専門】

小児神経学 発達障害医学

【資格等】

医学博士、小児科専門医、小児科指導医、小児神経専門医、子どものこころ専門医



北海道大学大学院 教育学研究院

関 あゆみ (セキ アユミ)

【経歴】

1994 年 鳥取大学医学部医学科卒業、鳥取大学医学部脳神経小児科に入局
1999 年 鳥取大学大学院医学系研究科博士課程、ディスレクシアの脳機能について研究
2003 年 鳥取大学医学部脳神経小児科助手
2006 年 鳥取大学地域学部地域教育学科 准教授
2014 年 鳥取大学地域学部附属子どもの発達・学習研究センター 准教授
2015 年 北海道大学大学院教育学研究院 准教授 (学習神経心理学)
2021 年 北海道大学大学院教育学研究院 教授 (学習神経心理学)

【専門】

小児神経学 特別支援教育

【資格等】

医学博士、小児神経認定医



1

そもそもディスレクシアとは？

最近、テレビの教育や福祉関連番組などでよく取り上げられていますが、そもそも“ディスレクシア”って何なのでしょう？

ディスレクシアにはちゃんとした定義があります。それは後ほど述べるとして、まずディスレクシアとは、分かりやすく言えば、全般的な発達に遅れはなく、勉強も頑張っているのに、基本的な（わが国で言えば平仮名）文字の読みが極端に苦手で、学校の勉強に悪影響を及ぼしている状態だとお考えください。

ここで大事なのがディスレクシアのお子さんは「平仮名が読めない子」ではなく、「極

端に遅いし、よく読み間違える子」の中にひっそりと隠れているという事実です。

日本語の平仮名は文字とその読みの対応関係がとても規則的なので、ディスレクシアのお子さんも、頑張れば平仮名文字くらいは読めるようになっていくことが多いのです。

しかし問題は、その「読める」ということの中身です。例えば「ゆきだるま」という5文字の平仮名を見て、ディスレクシアのお子さんがやっとの思いで「……ゆ・き……だ……る・ま」と拾って読んだとします。ほとんどのディスレクシアのお子さんは、自助努力で



読めるようになって、このような拾い読みの状態なのです。

これは「読める」か「読めない」かの2択では読めると判断されますので、学校の先生には「この子は、平仮名は読めますよ」と言われてしまいます。つまり、「文字が読めないディスレクシアなどという子は、うちのクラスにはいません」ということになってしまいうのです。しかし、たった5文字の平仮名を読むのに、やっとの思いで絞り出すように読むこと自体が問題なのであり、それに気づかない「読める」ということの解釈のズレが、

ディスレクシアの子どもたちを長きにわたって埋もれさせている元凶なのです。まずはぜひともこの事実を目を向けてください。

ディスレクシアの子は
“文字が読めない子” ではありません！
“極端に遅いし、よく読み間違える子” の中に
ひっそりと隠れています。

1) そもそもT式ひらがな音読支援ってなに？

本書の本题であるT式ひらがな音読支援について紹介いたします。ディスレクシアの診断については、前章のように進めていけば良いのですが、では「治療や指導はどうしたらいいの？」という問いかけにお答えするのがこのT式ひらがな音読支援になります。また、T式ひらがな音読支援はディスレクシアに限らず、広く読み書きが困難なお子さんの支援ツールでもあります。

以前は鳥取大学方式と言っていました。筆者両名が鳥取大学在職中に開発したからです。しかし、開発者2名ともに鳥取大学から離れましたので、問い合わせなどが鳥取大学にいても担当者がいないのではご迷惑をおかけすると考え、T式と命名した次第です。ですからT式のTは「鳥取大学」のTです。

そして、鳥取県や鳥取市のTでもあります。開発にあたっては鳥取県や鳥取市の教育委員会、学校関係者、鳥取大学附属小学校の教職員の方々に多大なご尽力をいただきました。そこで感謝の思いを込めてT式と命名しました。新版K式発達検査のKが「京都」を意味することに倣ったということになります。

さてT式ひらがな音読支援は2つの柱から成り立っています。一つは2段階方式の音読指導であり、もう一つはRTIモデルによる早期発見と早期介入です。



T式ひらがな音読支援

1

2段階方式の音読指導

2

RTIモデルによる早期発見と早期介入



漢字の読みの指導

1. 漢字は熟語で学習すると良い

①読みを教える、②意味を教える、③例文を作るという3点を大切にして指導すると習得しやすくなります。語彙指導の要領と同じです。

ほとんどの熟語には一通りの読み方しかないので混乱しなくて済む上に、意味を思い浮かべやすいからです。

2. 漢字は漫画本で勉強する

漢字には親和性の高いものが身につくという性質があります。ですから漢字が身近になるくらいに漫画本に熱中すると漢字が読めるようになっていきます。ルビが振ってあることも大いに助けになります。

個人的にはドラえもんがおすすめです。ドラえもんは、セリフの中に熟語がよく出てくるのでとても勉強になります。

参考文献

1. 稲垣真澄編集代表, 特異的発達障害の臨床診断と治療指針作成に関する研究チーム編, 特異的発達障害 診断・治療のための実践ガイドライン ―わかりやすい診断手順と支援の実践―, 東京: 診断と治療社, 2010.
2. 井上智, 井上貴子著, 読めなくても、書けなくても勉強したい ディスレクシアのオレなりの読み書き, 東京: ぶどう社 2012.
3. 内山仁志, 田中大介, 関あゆみ, 若宮英司, 平澤紀子, 池谷尚剛, 加藤健, 小枝達也: 平仮名音読に困難を示す小児への読指導の効果に関する研究. 脳と発達 45:239-242, 2013.
4. 葛西和美, 関あゆみ, 小枝達也: 日本語dyslexia児の基本的読字障害特性に関する研究. 小児の精神と神経 46:39-44, 2006.
5. 北 洋輔, 小林朋佳, 小池敏英, 小枝達也, 若宮英司, 細川 徹, 加我牧子, 稲垣真澄, 読み書きにつまずきを示す小児の臨床症状とひらがな音読能力の関連. 脳と発達 42:437-442, 2010.
6. 小枝達也, 寺川志奈子, 汐田まどか, 健常児集団におけるToken testの得点分布について ―学習障害診断のための基礎的検討―. 脳と発達 32:25-28, 2000.
7. 小枝達也, 内山仁志, 関あゆみ, 小学1年生へのスクリーニングによって発見されたディスレクシア児に対する音読指導の効果に関する研究. 脳と発達 2011;43:384-388.
8. 小枝達也, 関あゆみ, 田中大介, 内山仁志. RTI (Response to intervention) を導入した特異的読字障害の早期発見と早期治療に関するコホート研究. 脳と発達 46:270-274, 2014.
9. Shaywitz S 著, 藤田あきよ訳, 加藤醇子医学監修, 読み書き障害 (ディスレクシア) のすべて, 東京: PHP研究所, 2006.
10. 関あゆみ, 発達性読み書き障害への気づきと対応について ―最近の進歩と今後の展望, RTIを活用した発達性読み書き障害への気づきと対応: 鳥取大学方式の紹介, LD研究24:324-328, 2015
11. 関あゆみ, 治療介入法の考え方, 発達性読み書き障害 (Dyslexia) 診断と治療の進歩: 医療からのアプローチ, 脳と発達2015;47:198-202.
12. 関あゆみ, 矢口幸康, 谷中久和, 田中大介, 内山仁志, 小枝達也, 読みにつまずく児童のためのResponse to Instructionモデルを想定した音読検査法の開発. 小児の精神と神経 56:145-153, 2016.
13. 平岩幹男総編集, 岡明, 神尾陽子, 小枝達也, 金生由紀子専門編集 データで読み解く発達障害, 東京: 中山書店 2016.
14. 若宮英司, 竹下 盛, 中西誠, 水田めくみ, 栗本奈緒子, 奥村智人, 玉井浩, 小枝達也, 稲垣真澄: 発達性ディスレクシアに対する新規訓練プログラムの開発と短期効果. 脳と発達 45:275-280, 2013.
15. 春原則子, 宇野彰, 朝日美奈, 金子真人, 栗屋徳子: 典型発達児における音読の流暢性の発達と関与する認知機能についての検討―発達性dyslexia評価のための基礎的研究―. 音声言語医学 56:3:263-270, 2011
16. Coltheart M, Rastle K, Perry C, Langdon R, Ziegler, J. DRC: A dual route cascaded model of visual word recognition and reading aloud. Psychological Review 108:204-256, 2001.
17. Hulme C., Snowling MJ. 著, 原恵子監訳 大石敬子, 原恵子, 石坂郁代, 今井裕弥子, 長並真美訳, 発達の視点からことばの障害を考える ディスレクシア・読解障害・SLI. 第2章読み障害 I : 発達性ディスレクシア, 東京: 上智大学出版 2016:36-86.
18. Koeda T, Hirasawa N. Effect of a decoding training program on the Hiragana reading ability of children of foreigners. Tottori J Clin Res 6:44-48, 2014.
19. Morgan WP. A case of congenital wordblindness. Brit Med J 2:1378, 1896.
20. Shaywitz BA, Shaywitz SE, Blachman BA, Pugh KR, Fulbright RK, Skudlarski P, Mencl WE, Constable RT, Holahan JM, Marchione KE, Fletcher JM, Lyon GR, Gore JC. Development of left occipitotemporal systems for skilled reading in children after a phonologically-based intervention. Biol Psychiatry. 55:926-933, 2004.



中山書店の出版物に関する情報は、小社サポートページを御覧ください。
<https://www.nakayamashoten.jp/support.html>

しき おんどく し えん りろん じっせん T式ひらがな音読支援の理論と実践 ～ディスレクシアから読みの苦手な子まで～

2022年 6月20日 初版第1刷発行©

著者 小枝 達也, 関 あゆみ
発行者 平田 直

発行所 株式会社中山書店
〒112-0006 東京都文京区小日向4-2-6
TEL 03-3813-1100 (代表) 振替 00130-5-196565
<https://www.nakayamashoten.jp>

装丁 BOB-K.Design カワムラ

印刷・製本 株式会社 シナノ パブリッシング プレス

Printed in Japan

Published by Nakayama Shoten Co., Ltd.
ISBN978-4-521-74950-1

落丁・乱丁の場合はお取り替えいたします

本誌掲載記事の無断転載をおことわりします。